



令和7年度 八王子市立上川口小学校 経営計画

児童が笑顔で「学校だいすき」と言える学校を目指して

校長 市川 利幸

I 目指す学校像

1 目指す学校像

…小規模校だからこそ実現できる、一人一人の成長を大切にした教育活動を推進する。そのために大切にすべきは、この学び舎に集う子どもも大人も「笑顔」であること、「学校だいすき」と言える学校づくりを目指す。

○ 笑顔で生き生きとすごせる学校 ○ 地域と歩み愛される学校 ○ 安全・安心で信頼される学校

2 学校の教育目標（目指す児童像 「か・み・か・わ」の子）

…人間性豊かに、自分の可能性を開花させる社会の人材に育つよう、「知・徳・体の調和」と「豊かな感性の醸成」、「たくましく生きる資質と能力」の育成を目指す。

- | | | |
|-------------------|---------------------------|------|
| ◎「か」……考える子 | 「ねばり強く、多様な見方・考え方で学ぶ子」 | （知） |
| ○「み」……みんなで進む子 | 「自分も友達も大切にし、心を通わせて思いやる子」 | （徳） |
| ○「か」……体も心も元気な子 | 「体を動かして遊び、何事にも生き生きと取り組む子」 | （体） |
| ○「わ」……わくわくドキドキする子 | 「自然を大事にし、好奇心・探求心を大切にする子」 | （感性） |

3 目指す教師像

…児童に真摯に向き合い、深い愛情と使命感にあふれ、自ら率先垂範し、学び続ける教師を目指す。

- ◎ 熱意と使命感にあふれる教師
- 豊かな人間性と思いやりのある教師
- 良さや可能性を引き出して伸ばす教師

II 中・長期的な目標と方策（目指す学校像の具現化）

1 すすんで学ぶ児童が育つ学校

○児童の心理的安全性を高める学級経営・専科経営を通して、学習意欲を高める工夫を行う。また、声と文字で伝え合う学習をすべての教育活動を通して継続的に実践する。…【授業改善の焦点化】

○八王子市学力定着度調査、はちおうじっ子ミニマムの結果と分析から、児童への定着状況を把握し、確実で固に感じられた習得に向けて、フォローアップタイムと朝の全校一斉漢字学習を重視する。…【基礎学力の定着と学び方の充実】

○一人一台の学習用端末を全学年において授業で積極活用する。新たな学びによる基礎的・基本的な知識と個別最適化した学習を推進し、技能とのバランスの取れた学び力を身に付けさせる。…【一人一台の学習用端末の活用】

2 保護者・地域と共に歩む学校

○学校運営協議会とPTA 主催の稲作体験、青少年対策委員会のあいさつ活動、子ども会や町会が主催の地域行事等を「社会的な学びの場」と捉え、連携を重視から学校・保護者・地域と共に歩み「子どもたちの元気を地域に広げる活動」を推進する。…【地域に根差した教育活動】

○年2回の学校・授業評価、各行事評価、校務運営評価と共に、「地域運営学校」としての評価や具申、意見等を真摯に受け止め、常に学校・家庭・地域が一体となった教育活動を展開する。…【学校評価の充実】

3 安全・安心・安定を確保し、信頼される学校

○特別支援コーディネーターを中心とした校内委員会を充実させる。一人一人の状況に応じた対応と合理的配慮を推進

するため、都スクールカウンセラー、特別支援教室巡回指導教員、子ども家庭支援センター、スクールソーシャルワーカー等の関係機関との連携を図る …【特別支援教育の理解と充実】

- 「八王子市いじめ総合対策」を踏まえ、学校いじめ対策委員会において、いじめ・不登校だけでなく児童の安全等の問題に対し、全教員による「徹底的な未然防止・早期の発見と対応・継続した見守り」を家庭・地域と連携する。加えて、ふれあい月間の6月・11月・2月には、全学級でいじめ防止に関する授業を、道徳科や学級活動等の時間を活用して年間5時間以上実施する。都スクールカウンセラーによる全児童面談は年3回（毎学期）に実施する。

…【いじめ及び生活指導上の諸問題への対応強化】

Ⅲ 今年度の取組目標と実施方策（目指す児童像の具現化）

～重点的・継続的に進める取組〔9つの柱〕～

1 学習規律と学習習慣を確立する「学びの構え」の徹底と基礎的・基本的な学力の向上

- 学びに向かう3つの構え「身構え・心構え・物構え」の指導を徹底し、発達段階に応じた学習規律と学習習慣を身に付けさせる。
- 朝の全校一斉漢字学習（週1回×15分）を活用し、「自分にあった学び方」を見つけ、確実に身に着けるための課題解決の場面とする。
- 放課後フォローアップタイム（週3回×20分）を活用した学習支援による学びの定着を図る。
- 学習の自立と自律を目指し、一人一台の学習用端末の活用による個別最適化された授業づくりと個別学習ソフト「ミライシード」による反復と既習内容の徹底を図り、「はちおうじっ子ミニマム」での100%の定着を目指す。
- 課題解決型の学習の視点から、総合的な学習の時間では、本校の課題解決型の学び方「感じる・見つける・考える・まとめる・生かす」を踏まえた探究的な学習活動を積極的に展開する。

2 共によりよく生きようとする自治的・自主的な態度と力育てる

- 特別活動（縦割り班活動や学級活動、学校行事等）を要とし、「人と関わる力」の向上を図り、感謝の気持ちとみんなのために役立つ喜びを味わわせる。
- 複式学級を伴う小規模校の特性を生かし、学級における「自治の力」を育む場面の設定をする。その中において、特に第6学年は、全員がリーダーを分担し、責任と役割を成し遂げる力を伸ばすため、重点的に育成する。

3 信頼され、魅力ある学校づくりに向けたに向けた家庭・地域との連携

- 開校150周年を契機として、歴史とつながりへの感謝を深めるとともに、学校にかかわる全ての人がウェルビーイングを実感できる魅力ある学校づくりをめざす
- 積極的な教育活動の情報発信に努め、学校だより（月1回）、学級・専科だより（月2回以上）、学校日記（週2回以上）、配信メールなど常に情報の発信と更新を行う。
- 就学前教育施設やフリースクール、放課後デイサービス等の施設との情報交換、地域のゲストティーチャーとの継続的な授業連携を推進し、この地域で育つ子どもたちの拠点としての学校の役割を果たす。また、学校運営協議会との協働を重視することで、保護者や地域の声・意見を学校経営に生かしていく。

4 組織的で計画的な生活指導を通し、安心・安全な学校を目指す

- 学校いじめ対策委員会（毎週金曜日）は全教員・都スクールカウンセラー・特別支援教室巡回指導教員、専門員が集合して実施する。いじめ・不登校案件はもとより、生活指導上の気付きについても全体共有し、支援の場とする。特に生命に係る言動・行動の情報の集約と対応は、「迅速・的確・誠実」を第一とする。
- 「学校はいじめを絶対に許さない!」という明確なメッセージを強く発信する。全児童を全教職員で見守ることを共通認識とするとともに、差別、偏見、いじめ、生命に係る言動や行動の予防、認知、組織的な指導を推進から、安心できる学校づくりを推進する。
- 交通安全、災害時の安全についても徹底を図る。また、デジタル機器の利用は日々深化しており、デジタル・シティズンシップの基礎段階として、自分で適切に判断ができる力を育むことを重視する。
- 児童の心理的安全性を高める学級経営・専科経営を校内研究の主題に定め、教員の学級経営における指導力の向上と育成を行う。

5 児童一人一人を大切にしたい相談体制と特別支援教育の充実

- 相談できる大人がいる児童 100%を堅持するとともに、都スクールカウンセラーによる全児童面談を、年3回（各学期1回）実施する。
- 学習する上での障害や、困難さを取り除く合理的配慮のある手だてを講じる。ユニバーサルデザインの考えに基づき、「学習の見通しをもたせる」「学習できる環境を整える」ことの推進を重視する。
- 校内委員会（特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員、都スクールカウンセラー、巡回指導教員、養護教諭、管理職）を中心に、「連携型個別指導計画」「学校生活支援シート」を活用した組織的で計画的な指導と支援を実施する。

6 地域に根差した学校教育を通して、「子供たちの元気を地域に広げる」

- 豊かな自然環境を生かした野鳥・自然観察、稲作体験、里山ウォークラリー等、自然や動植物の生命を尊重し、環境保全を学んだ次代を担う持続可能な社会の創り手の育成を目指し、「地域の特色を価値に気付く学び」を充実させる。
- 地域の伝統文化を生かした「上川子ども獅子」を継承し、地域活動への積極的参加を通して、伝統文化と郷土を大切にする心情の育成と伝える力の向上を図る。

7 人権意識を高め、道徳的な心情や実践力を身に付ける

- 「あいさつ」を今年度の重点とする。また、正しい言葉遣い等、望ましい生活習慣や社会的ルールについて、教職員が率先垂範するとともに具体的な場面を想定した指導に心がけ、規律と思いやりのある生活を送れるよう支援・指導をする。
- 「特別の教科 道徳」においては、教科書とノートを効果的に活用しながら考える道徳、議論する道徳の実践を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図る。
- 「八王子市のいのちの大切さを共に考える日」として、7月に「SOS の出し方に関する教育」、11月に「上川のいのちの日」の取組を実施する。また、デフリンピックの日本開催に合わせ、9月にデフサッカーの指導者、選手をゲストティーチャー招いて親子体験会と道徳授業公開併せて開催し、障がい者理解に向けた道徳的な学びの機会とする。

8 「上川 美山 にっこりプラン(小中連携)」4年目の推進と小中一貫教育川口中学校区5校による連携の強化

- 川口中学校への進学を見通し、隔遠地小規模2校（上川小・美山小）の交流活動を低学年から積み重ねることにより、緩やかな人間関係の構築をねらいとする。
- 川口中学校での行事見学・授業や部活動の体験により、小学校6年生には中学校への希望と意欲付けに加え、「上川カムバックデー」の取組から運動会や稲作体験活動など、地域活動への中学生の合同参加を積極的に促した小中の連携も実施する。
- 川口中学校区「小中一貫教育の日」と5校連絡校長会を中心に、小中学校9年間の一貫した教育に向け、5校間での合同実施工事の充実を通して円滑な接続を図る。

9 教育公務員としての「使命感」と「サービスの厳守」。

- 人権教育理解研修、サービス事故防止研修、危機管理研修、体罰防止研修等の着実な実施を重ね、教育公務員としての自覚と資質の向上を図り「サービス事故ゼロ」を貫徹する。
- 教職員一人一人が役割と責任、職責を自覚し、報告・連絡・相談・記録を徹底する。各分掌におけるライン系統を明確化することにより、互いに支え合い補完し合える学校組織として強化していく。
- 学校危機管理においては、全教職員が一丸となって取り組む。「働き方」の見直しと、意図的・効果的な校務の遂行は、教職員組織全体の活力と直結することとして捉える。なお、時間外における在校時間 45 時間以内を徹底する。